

ユブシウヤからはあやかり名をもらい、家譜に「仁也」と記された。ユブシウヤとの間は、仮の親子として一生の交際が続いた。仁也から立身し、役人の職に任命されると仁也を廃止して役職名が記録された。あやかりの仁也名は、ユブシウヤの仁也名や役職名をあやかるものだが、仁也名には、蔵元の役職の名乗り名、または在番からもらう名前、さらに身内の中で、すでに在番からもらっていた人からのあやかり仁也名などがある。

なお蔵元廃止前後には、親戚兄弟で仁也名を揃えることが多くなった。また、十九世紀中葉には、自分の名前や仁也名を変える傾向があった。

## 八重山の行政組織

喜舎場永珣氏の『新訂増補 八重山歴史』（一九七五年／国書刊行会）の中の第三章・政治、第一節・蔵元時代を参照して八重山蔵元時代の機構図を作成した。明治二六（一八九三）年における蔵元の役人数は、有給の在番一人、在番筆者二人、頭三人、首里大屋子五人、与人二十三人、大目差一人、大筆者一人、脇目差一人、脇筆者一人、目差二十九人、若文字十七人、惣横目筆者一人、杣山筆者二十八人、耕作筆者二十九人、無給の仮若文字三十人、杣山仮筆者一十六人、耕作仮筆者二十九人、定加勢十九人の計二百四十七人である。

### 主な役職名の解説

頭（かしら、カサ）——琉球王国時代の八重山の政治における最高責任者であり、職名を大首里大屋子（おおしゅりお

おやこ」と言い、一五〇〇年、尚真王が「オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」後に置いた。石垣、大浜、宮良の三間切に各一人。目差以上の役人で選挙され、当選者を在番に上申し、さらに琉球王国に上申してそれを国王が任命したが、時によって王命によって任命することもあった。任期は終身職であり、琉球王国派遣の在番のもとに三人の頭の合議制で行政をつかさどった。

首里大屋子（しゅりおおやこ、シナバグ）―間切番所の役人で現今の助役に相当し、番所において頭の補佐役であり、首邑のあつかい役人として、また蔵元の主要ポストの責任者として大きな役割を發揮し、将来頭に推挙されるべき人。

与人（ゆんちゆ、ユンチュ）―蔵元では頭の下で各座・方（行政の部署）の主任で村（今の字）の政治の最高責任者。

目差（めざし、ミザシ）―蔵元にあつて首里大屋子、与人を補佐し、各座・方の役職を兼任する者もいた。村番所では与人の下で所管事務を処理した。

蔵筆者（くらひつしゃ、クラブシヤ）―蔵元の役職の一つであり、蔵筆者は在番、頭の事務担当官として順番に琉球王国に出張したり、王府への上納や、さまざまな夫役、雑務担当者であり、また、在番、頭が諸地域に行くときに同行したり、各村にいる担当役人と連絡をとったりする役である。脇筆者から脇目差へ進み、大筆者、さらに大目差へと昇進する。

杣山筆者（そまやまひつしゃ、スリヤマビシヤ）―山林の保護育成に当たる役人。

耕作筆者（こうさくひつしゃ、コーサクピシヤ）―田畑耕作などの指揮監督に当たる役人。

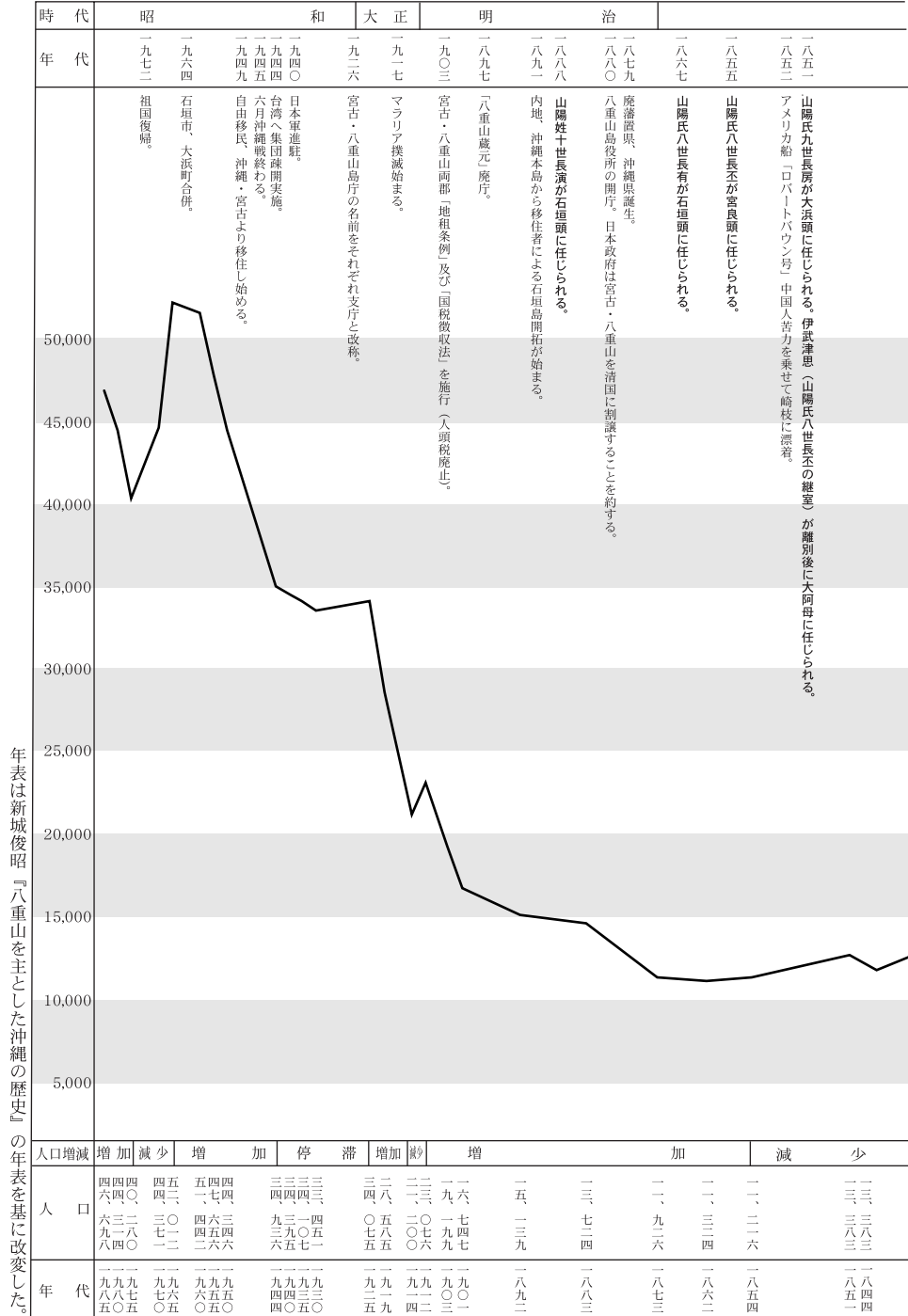
若文字（わかていくぐ、バガティフヌ）―蔵元の下級書記。間切の事務に従事するかたわら蔵元の雑事を務め、また学問の修業をした。仮若文字の中から優秀な者が選抜され、御物奉行より任命された。任期なしの役職である。

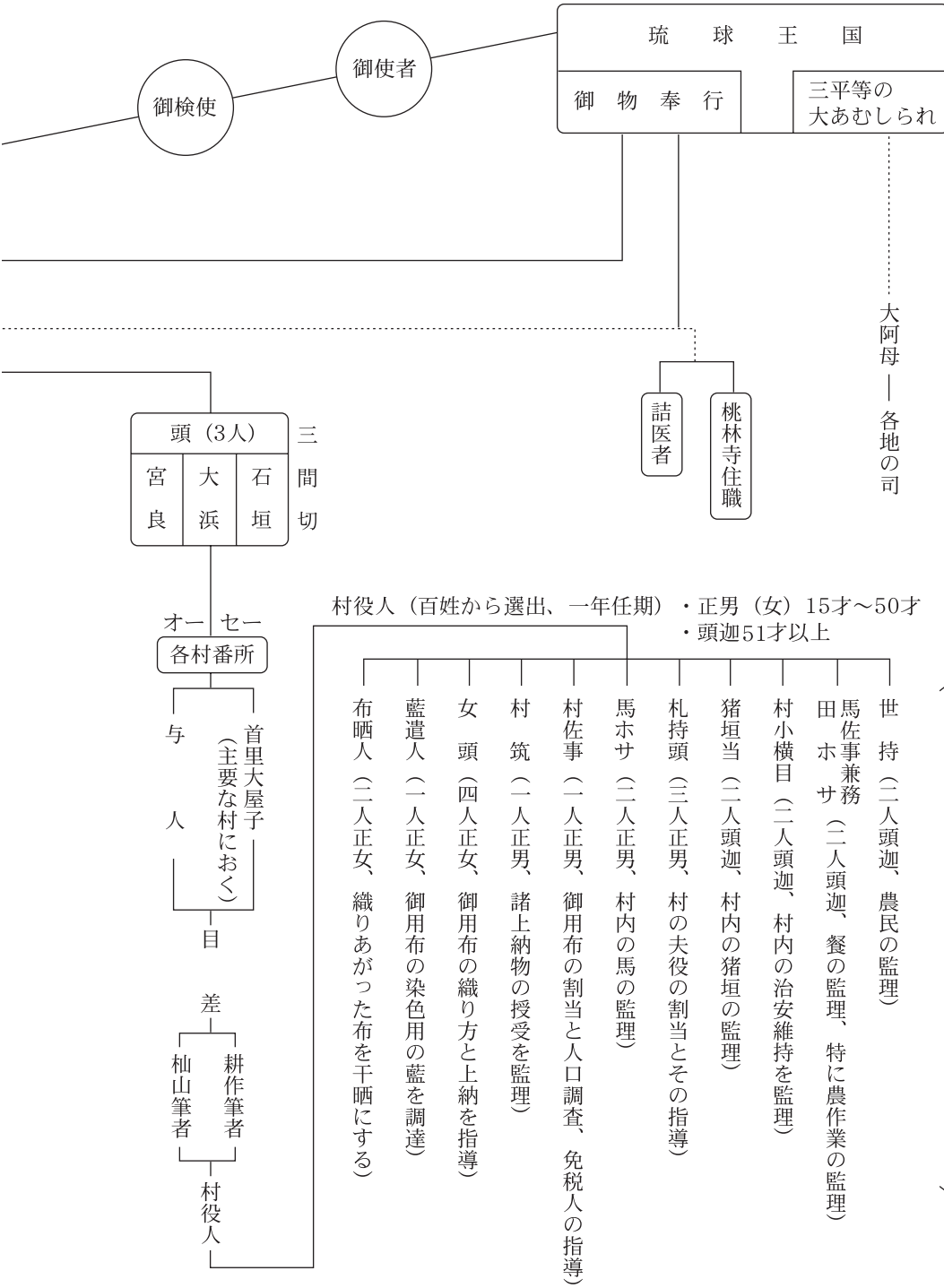
八重山在番（やえやまざいばん）―琉球王国の代行機関で、琉球王国役人中から任命され、八重山蔵元の三頭の相談役と兼ねて監督の権限を有し、八重山統治の責任者。

八重山歴史中の主な出来事と人口推移一覽 (※太字は山陽姓一門関係)

江	戸	
一三九〇	宮古・八重山、初めて沖縄島の中山に入貢する。	一三九〇
一四二九	尚巴志が山南王を滅ぼし、三山(沖繩島)を統一する。	一四二九
一四七七	朝鮮漂流民を与那国島で救助され、西表島、波照間島、新城島、黒島、多良間島、伊良部島、宮古島を経て王府が朝鮮へ送還する。	一四七七
一五〇〇	「オヤケアカチ・ホンカワラの乱」が起こる。	一五〇〇
	石垣島の美良底村出自の山陽姓大元長光の先祖・那礼当・弟の那礼重利・嘉平村出自の仲間満慶山、波照間島の明字底獅子嘉殿らがアカハチらに殺害される。王国らがオヤケアカチ・ホンカワラの乱を鎮圧する。以後、宮古・八重山への支配が強化される。	
	宮古の仲宗根豊見親玄雅の二男・祭金(列金)豊見親玄数が八重山頭に就いた。宮古の八重山統治の八重山頭職時代(一五〇〇～一五三三)が始まる。	
	※山陽姓大元長光の先祖那礼当の子息美良底村百里大屋子は字新川の美良底村から慶田盛村に移る。	
一五〇二	王国は大阿母の職を平得村の多田屋オナリ、永良比金神職は真乙姥に初めて任ずる。	一五〇二
一五二二	「与那国島の鬼虎の乱」が起こる。	一五二二
一五二四	西嶋・竹富大首里大屋子に任じられ、竹富島の小字皆治原に八重山蔵元を創設する。	一五二四
一五四三	竹富島の八重山蔵元を石垣島の字大川に移す。	一五四三
一五八四	山陽姓大元長光が生まれる。	一五八四
一六〇七	八重山の人口五千五百人と初めて記録にあらわれる。	一六〇七
一六〇九	薩摩の琉球侵入で尚寧王降伏。以後、島津の支配下に置かれる。	一六〇九
一六一二	薩摩の役人が八重山を檢地(測量)する。八重山の行政区域は六間切・二島嶼・五十八方村。	一六一二
一六一四	桃林寺、権現堂が創設される。	一六一四
一六二四	南蛮船、石垣島の富輪に漂着。ルエタ神父来島。八重山のキリシタン事件が起こる。首謀者の宮良頭の永将は字新川の慶田盛村のオンチーで磔刑された。	一六二四
一六二九	その後、宮良頭を弟の永弘が継承する。	一六二九
一六三〇	トマス・デ・サン・ハシント西六左右衛門神父が日本へ密航の途中に石垣島に來島し宮良頭の永弘と接触する。	一六三〇
一六三二	宮良頭の永弘は、昨年のトマス・デ・サン・ハシント西六左右衛門神父との接触の件でキリシタンの嫌疑にかけられ、友人の大城身人(毛簡氏二世安師と王府に連判され、永弘は有罪として流名喜島へ流刑され友人の大城身人安師も同罪で慶良間島へ流刑される。また、大城身人安師の妹、思戸の大浜頭廻りの件で長宗氏五世大浜親雲上信行は	一六三二
一六三三	山陽姓大元長光は宮良頭に任じられる。すでに、長光は字新川の慶田盛村から現在の字石垣三番地の波揚名村に移る。	一六三三
一六三三	八重山に在番を設置する。	一六三三
一六三六	キリスト教の宗門改めが始まる。	一六三六
一六三七	宮古・八重山に人头税を課す。	一六三七
一六四一	大和在番制度を設置(七年間)。	一六四一
一六四四	遠見番(のろし)を各地に設け、海上を監視させる。	一六四四
一六四七	山陽姓二世長重が、宮良頭に任じられる。	一六四七
一六五八	宮良頭の山陽姓二世長重により宮良川架橋創建される。蔵元で身人職が始まる。	一六五八
一六六〇	目差職が始まる。	一六六〇
一六六九	山陽姓三世長好が宮良頭に任じられる。	一六六九
停滞	停滞	
五、四八二	五、五〇〇	五、四八二
一、六四七	一、六〇七	一、六四七
一、六五一	一、六〇七	一、六五一

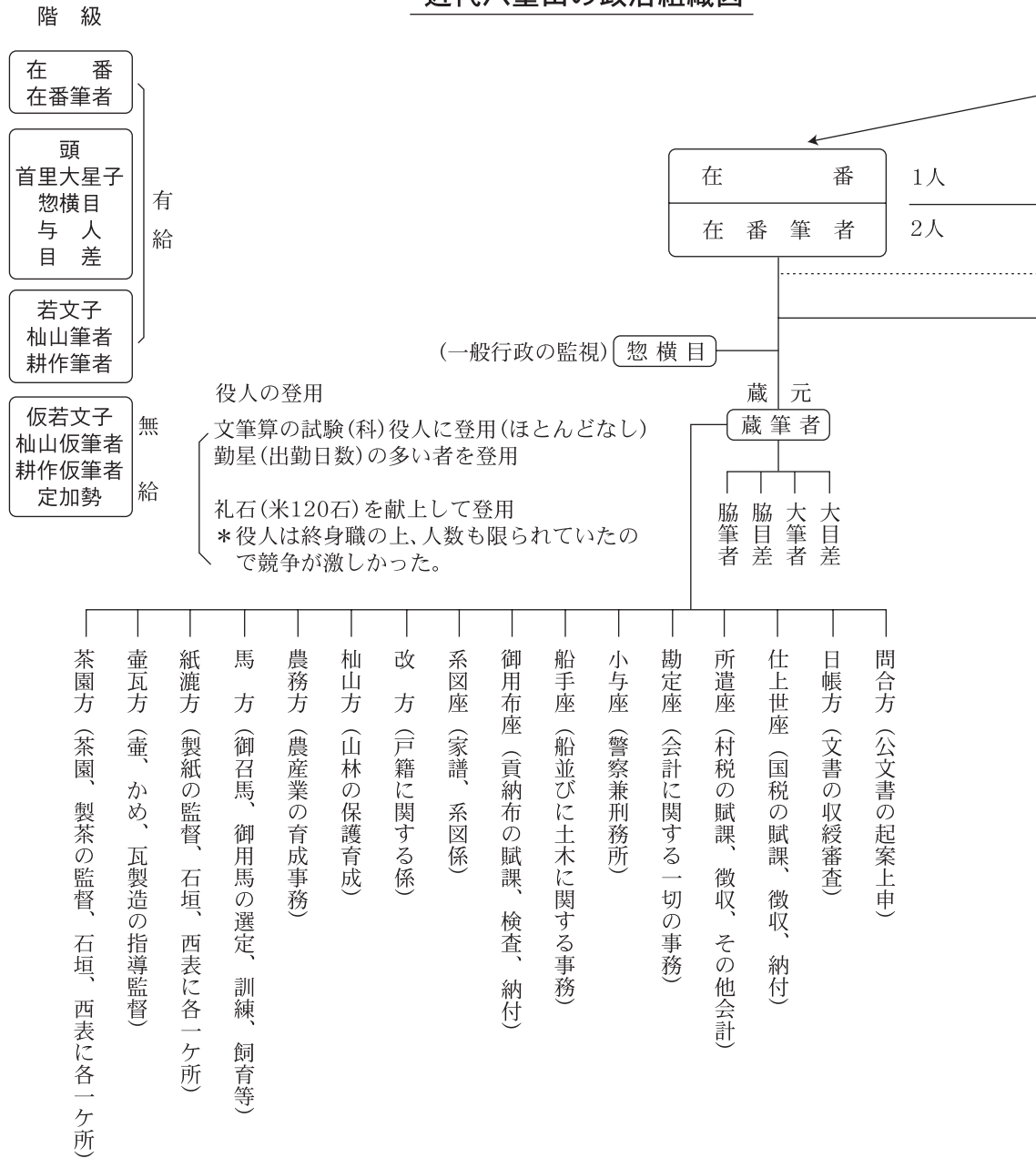






(新川、石垣、大川、登野城、真栄里、平得、大浜、宮良、白保、川平の例)

### 近代八重山の政治組織図



(「沖繩の歴史」 新城俊昭、1986を参考に作図)